

学校園だより

良樹細根

丹波篠山市立
たまみず幼稚園
城北畑小学校
11月の2



後期委員会の活動がはじまりました。

- ①運営委員会：10月25日（月）～29日（金）まであいさつ週間でしたが、7時30分に登校し、8時過ぎまで児童玄関口であいさつを交わしています。いつもより早く起床して登校する姿に感心します。
- ②放送委員会：毎日の学校放送を担当。明るい声でアナウンスしています。
- ③給食・健康委員会：毎週月曜日に委員が各クラス入り給食献立の説明を行います。
- ④図書：本の貸し出しと各クラスでの読み聞かせ等を行います。
- ⑤環境・広報委員会：集まった空き缶の回収と掃除チェック等を担当します。
- ⑥運動委員会：主に運動レクリエーションの企画及び運営を行います。

5, 6年生が中心になって主体的に行うことで、よりよき学校文化の創造を期待しています。

兵庫県警察本部前で敬礼！！



●ぼくは、十月二十九日に県庁見学に行きました。まず、県庁に行きました。初めて知ったことは、バッチの色によってけいさつのえらさがちがうことです。ぼくは、そう知る前は全員が同じえらさだと思っていました。けど知ってからびっくりしました。他にも交通管制センターの仕組みについても教えてくれました。まず、テレビカメラで交通情ほうを集めます。次に、集めた交通情ほうをラジオやカーナビに知らせます。

それから、信号の時間を調整することも知ることができました。人のために仕事をしているからすごいと思いました。次に、兵庫県公館を見学しました。一番すごいなと思ったのが大会議室です。なぜかという、とてつもなく広くて、とてもきれいなじぎくのシャンデリアが十個もあったからです。他にも兵庫県のみ力などを知ることができたので勉強になりました。最後に、バンドー神戸青少年科学館を見学しました。科学の不思議や仕組み、み力などが分かりました。県庁に行ってたくさんのことを学んだから、それらを教える側になって県庁がどんなところだったか教えたいです。（男児）●わたしは今日、校外学習に行きました。まず、兵庫県けい察本部に行きました。わたしが初めて知ってびっくりしたことは、県けいは地下四階合わせて二十七階だてで、百十メートルということと、手じょうは黒色だということです。わたしは、「なぜ、歩行者用の信号には黄色がないんですか。」と質問すると、「赤は絶対わたってはいけないから。」と言われていました。しつ問できてよかったです。次に、兵庫県公館に行きました。大会議室のシャンデリアと床のもようは、最初わたしは、ハルジオンかなと思ったけど、のじぎくだということが分かりました。兵庫の花は知らなかったのを知ることができてよかったです。てん示室に行って、兵庫の初代知事が伊藤博文だということも分かりまし

た。次に、名前は忘れてしまったけど、県議会が行われる部屋に行きました。そこには丹波篠山出身の小西さんがおられました。この部屋は、てい電があっても光が入るように、真ん中がすりガラスになっていることが分かりました。いいけいけんになったのでよかったです。お弁当を食べて最後に、バンドー青少年科学館に行きました。第四てん示室のクイズに答えるのがあって、自分のキャラクターの顔をもうだれかがとっていたので、それでやりました。楽しかったです。県庁や県けい、科学などについていろんなことを知ることができたのでよかったです。（女児）●私は今日、校外学習に行きました。バスの中ではコナンのDVDがおもしろかったです。兵庫けい察本部について教えてもらいました。けい察本部の高さは百十メートルで、まさに百十番だと思いました。手じょうは、シルバーだと思っていたけど、黒だと初めて知りました。制服の横に付いている物は、県によってちがうことが分かりました。かいきゅうしょうは、人によってちがうことも分かりました。交通管制センターのテレビカメラは、兵庫県内に八百台あって、その中には交通情ほうを集める人、ラジオやカーナビに知らせる人や、信号きの時間を調整する人がいて、すごいと思いました。兵庫県は、事故などによる死者数が全国で八番目で、通信指令室では、だいたい一分に一回、このコロナかでは、七十二秒に一回かかっていると分かりました。一、二列目は機のランプが緑に光っていたら百十番を待っていて、黄色は、百十番を受けていて、赤は、さつ人やゆうかいなど大きな事件で、百十番は年間で四十三万件かかってくるけど、そのうち六万件はいたずら電話だと分かりました。けい察は、たくさんのお仕事をしていると分かりました。（女児）



※※※先月29日（金）4年生校外学習で、神戸に出かけました。その時の児童の感想です。警察本部交通管制センターでは女性警官が仕事について説明されようとすると、児童はすぐさまリュックをおろし、筆記用具を取り出して聞き洩らしがないようにメモを取ろうとする姿勢には感心しました。担任による普段の指導が行き届いていると感じました。※※※

道徳親子読書中学年



本校では親子で道徳の本を読み、感想などを話し合う取組をすすめています。今回は教材名「より遠くへ」です。

①ねらい:パラリンピックに出場した主人公の生き方を通して、希望と勇気、努力と強い意志について考える。

②保護者の感想:●足をなくして義足になって歩くのも大変なのに、それを乗り越えてパラリンピックに出場し、夢を叶えてすごいなと思いました。子どもにも目標を持って何か頑張れるものを見つけてほしいです。●病気により義足になり、現実の辛さに一度は生きる目標を失ったものの、紆余曲折を経て再び陸上で生きる目標を手に入れた真海さんの挑戦は、素晴らしいと思いました。諦めなければ何でも挑戦できるという事を今一度教えていただいた気がしました。●失ったもの

ではなく持っているものこそ大切というのは、夢に向かって子どもへの心強いメッセージですね。「走ってごらんよ。」一歩を踏み出す言葉は、何気ないものですね。子どもの夢も大切に話を聞いて応援してあげたいです。●すべてそろっていてあたり前で、何か一つでも欠けるとできない、とってしまいがちですが、失ったり失くしたりしてから気付ける思いや、目標が生まれたりするので、何ごと諦めず心強く生きることができる子になってほしいものです。とても難しいと思いますが…。●周りの方々に支えられながら、現実を受け止めて目標を立て、結果に繋がられる素晴らしい選手だなと感じました。●生きてると楽しいことばかりではなく、つらいこともたくさん経験します。そんな時に、前向きに考えることができるかが、簡単ではないですがとても大事だと感じました。また、好きなことやスポーツには、そんな前向きにさせてくれる力があり、子どもにも好きなことをたくさん見つけてもらいたいと感じました。 ※※※※※親子で読書！いつも貴重なご感想をありがとうございます。 ※※※※※